



水平社宣言を読む

2022



中 島 久 恵

宣 言

全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

長い間虐(いじ)められて來(き)た兄弟よ、過去半世紀間に種々(しゅじゅ)なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等(われら)の爲(た)めの運動が、何等(なんら)の有難い効果を齎(もた)らさなかつた事實(じじつ)は、夫等(それら)のすべてが吾々によつて、又他(た)の人々によつて毎(つね)に人間を冒瀆(ぼうとく)されてゐた罰(ばち)であつたのだ。そしてこれ等の人間を勦(いたわ)るかの如き運動は、かへつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際吾等の中(うち)より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團(しゅうだん)運動を起せるは、寧(むし)ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者(かつこうしゃ)であり、實行者(じっこうしゃ)であつた。陋劣(ろうれつ)なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者(じゅんきょうしゃ)であつたのだ。ケモノの皮剥(かわは)ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ、ケモノの心臓を裂く代價(たいか)として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑(ちようしょう)の唾(つば)まで吐きかけられた呪(の)はれの夜(よ)の惡夢のうちにも、なほ誇(ほこ)り得(う)る人間の血は、涸(か)れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享(う)けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印(らくいん)を投げ返す時が來たのだ。殉教(じゅんきょう)者が、その荊冠(けいかん)を祝福される時が來たのだ。

吾々がエタ(〇〇)である事を誇(ほこ)り得(う)る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦(きょうだ)なる行爲によつて、祖先を辱(はずか)しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何(ど)んなに冷たいか、人間を勦(いた)はる事が何(な)のであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願求禮讃(がんぐらいさん)するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間(にんげん)に光あれ。

大正11年3月

水 平 社

* 崇仁小学校所蔵「綱領・宣言」を基に、旧字体の一部を新字体にし、() 内で示した振り仮名は、『水平』第1巻第1号「創立大会号」を参照した。

目 次

■ はじめに

■ 1 水平社宣言の特色と社会的背景

- ① 国内外の思想・宗教・文化活動から多彩な影響を受けた
- ② 世界の出来事から影響を受けた
- ③ 「大正デモクラシー」といわれる日本の社会運動の流れの中で生まれた
- ④ 被差別部落内外の人的交流、連携があった

■ 2 水平社宣言 解説

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ！

- 全国に散在する
- 特殊部落民よ団結せよ！

過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等のための運動が、何等の有難い効果をもたらさなかった人間を勦(いたわ)るかのごとき運動は、かへつて多くの兄弟を墮落させた

- 水平社創立前後の部落改善事業（地方改善事業）・融和運動

吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集団運動を起こせるは、寧（むし）ろ必然である。

- ツルゲーネフ『処女地』のネヅダーノフ
- ゴーリキー『どん底』のサチン
- なぜ、ツルゲーネフとゴーリキーだったのか

ケモノの皮はぐ報酬として、生々しき人間の皮をはぎ取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引き裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた

- 死んだ牛馬の処理と関連産業

水平社は、かくして生れた

- 水平社とレブエラース

■ おわりに

■はじめに

1922（大正 11）年 3 月 3 日、京都岡崎公会堂で全国水平社の創立大会が開催されてから、100 年が過ぎました。100 年前の日本を振り返りながら、創立大会で読み上げられた「宣言」について、考えてみたいと思います。

部落差別は、江戸時代の身分制に起因すると指摘されています。その歴史は長く、明治になって制度が改められてからも、差別は、なくなりませんでした。そのために、差別に苦しんでいた人びとが、自分たちの力で差別をなくそうと立ち上がり、水平社を創立しました。1922（大正 11）年 3 月 3 日のことです。

1922（大正 11）年 3 月 3 日の全国水平社創立と宣言は、「大正デモクラシー」の重要なできごととして、小学校、中学校の社会の授業で学びます。

たとえば小学校 6 年生の教科書では、大正期の運動として、次のものが取り上げられています。

米騒動

全国水平社

普通選挙運動

1925 年 男性 25 歳以上 選挙権

女性参政権運動 平塚雷鳥 市川房枝

全国水平社創立大会で読み上げられた宣言に何が書かれているのかについて、創立前後に発表された以下の資料を参考にしたいと思います。

1. 『よき日のために』 水平社創立趣意書 水平社創立発起者 2 月 5 日発行

水平社創立に向けて、参加を呼びかけるために作成された

2. 『宣言』 水平社 3 月 3 日

創立大会で、読み上げられた

3. 『水平』 第 1 巻第 1 号 創立大会号 水平出版部 7 月 13 日発行

創立大会後に発行された機関紙『水平』の第 1 号

主な投稿者

南梅吉（中央執行委員長） 佐野学（早稲田大学教授）

荒木素風（中外日報主筆） 阪本清一郎

泉野利喜蔵 平野小剣 西光万吉 伊藤野枝

■ 1 水平社宣言の特色と社会的背景

まずはじめに、水平社宣言の特色と、その社会的背景について、簡単にみておきましょう。ポイントは4つです。

- ① 国内外の思想・宗教・文化活動から多彩な影響を受けた
- ② 世界の出来事から影響を受けた
- ③ 「大正デモクラシー」といわれる日本の社会運動の流れの中で生まれた
- ④ 被差別部落内外の人的交流、連携があった

① 国内外の思想・宗教・文化活動から多彩な影響を受けた

1つ目は、国内外の思想・宗教・文化活動など、さまざまな分野から多彩な影響を受けているということです。水平社宣言だけでは、その影響を読み取ることは難しいですが、創立大会への結集を呼びかけた創立趣意書『よき日のために』には、思想・宗教や外国の小説などからの引用があり、併せて読むと、宣言に書き込まれた言葉の意味が見えてきます。100年前には、今のように簡単にネットで検索という訳にはいきませんから、宣言と創立趣意書を書いたのは、国内外の思想・宗教・文化に通じた博覧強記の人であったことがわかります。

【創立趣意書で言及されたもの】

仏教：親鸞、晨朝礼讃（じんじょうらいさん）、無碍道

日本神話：黄泉比良坂（よもつひらさか）

ナザレのイエス

ギリシャ神話：盗賊プロキュスト（プロクルステス）、ゴルゴン

インフェルノ ルシファー（光をもたらすもの 墮天使）

ダヴィドの共和祭祭典（ジャック＝ルイ・ダヴィッド）

ツルゲーネフ（ネヅダーノフ『処女地』1877）

ゴーリキー（サチン『どん底』1902）

ウィリアム・モリス

ロマン・ロオラン

② 世界の出来事から影響を受けた

2つ目は、1とも関わりますが、当時の世界の動きからも、大きな影響を受けたことです。例えば、阪本清一郎は、「私たちに対しても大きな影響を与えた」出来事として、革命、戦争、独立運動、民族運動、日本の社会運動など、当時の激動する世界の出来事を挙げています。

阪本清一郎「水平社創立の思い出」

(『部落問題資料文献叢書第3巻第1冊 水平』 近代文芸資料復刻叢書第7集)

「私たちに対しても大きな影響を与えた」として挙げた出来事

ロシア：社会主義革命 ドイツ：革命

第一次世界大戦終了

パリ平和会議 「人種平等差別撤廃」「民族自決」

インド：ガンジーのスワラジ運動

アイルランド：シンフェン党の独立闘争

アフリカ：民族独立運動

アジア（中国など）：植民地解放運動

日本：米騒動、小作人争議、デモクラシー、社会主義思想

③ 「大正デモクラシー」といわれる日本の社会運動の流れの中で生まれた

3つ目は、大正デモクラシーとの関わりです。

阪本清一郎が影響を受けたとして挙げた「デモクラシー」は、「民主」主義を意味します。けれども当時は、吉野作造が唱えた「民本」主義という言葉が使われていました。吉野は、政策決定は一般民衆の意向に従うべきとし、普通選挙制や政党内閣制を主張しましたが、それは天皇を中心とした日本の君主制が前提でした。戦後日本国憲法下の「主権在民」を基本とする「民主主義」とは異なるものであるため、大正期のデモクラシーとして区別されています。

第一次世界大戦（1914～18）後の日本では、労働運動や農民運動、女性運動などの社会運動が活発になり、社会主義の思想も広まりました。また、大都市の発達で、都市に住む人びとの生活様式や意識にも変化が生まれ、新聞、雑誌の普及や、ラジオ放送の開始は、より多くの人の文化的環境を豊かにしました。

水平社の創立は、こうした当時の人びとの社会に対する関心の高まりと共にあったのです。

④ 被差別部落内外の人的交流、連携があった

4つ目に、日本の社会運動が盛んになってくる中で、人との交流が生まれ、そこから影響を受けました。早稲田大学教授で社会主義者であった佐野学は、まだ非合法であった時代の日本共産党委員長で、特に水平社の創立期に影響を与えました。他にも堺利彦や、キリスト教社会運動家の賀川豊彦、大杉栄といったアナキストなど、多くの人と交流がありました。

佐野学 早稲田大学教授 社会主義者

昭和初期の非合法政党時代の日本共産党中央委員長

堺利彦 社会主義者

岩佐作太郎 アナキスト（無政府主義者）

賀川豊彦 キリスト教社会運動家

山川均 社会主義者 労農派マルクス主義

大杉栄 アナキスト

こうした時代の雰囲気について、西光万吉は、戦後、次のように思いを語っています。

（＊下線は引用者）

水平運動を起す前から、私たちはのんきな「社会主義者」であった。（中略）

当時の私たちは、のんきなもので、アナでもボルでも、その他でも、さほどに気にしていなかった。私にしても堺（利彦）さんの宅へも行けば、岩佐（作太郎）さん宅へも行き、また、賀川（豊彦）さんのお宅へも行った。阪本さんも、山川（均）さん、大杉（栄）さんの宅へも行っておられた。ともかく「主義者」であれば私たちは安心して何でも話ができた。彼らだけが無差別世界の住人であった。

西光万吉「水平社が生まれるまで」（雑誌『部落』31号 1952年3月）

（部落問題資料文献叢書第8巻 水平運動論叢 世界文庫）

水平社の運動は、アナキズムやボルシェビキなどの影響を受けており、そうした当時の運動を、社会思想や運動論として考察することには重要な意味があります。水平社の活動家といっても、個々人で考え方の異なる部分もありました。

けれども、ここで西光の述懐から着目しておきたいことは、水平社の活動が、常に特定の主義主張を深く理解し共鳴して関わっていたというよりは、その根底には、同時代に、新しい価値観で、社会を変えようとしていた人びとへの強い共感があったということではないでしょうか。

■ 2 水平社宣言 解説

それでは、水平社創立大会の宣言を読みながら、その意味するものを考えてみましょう。

宣言文のテキストは、京都の崇仁（すうじん）小学校が所蔵していた「綱領・宣言」を基に、旧字体の一部を新字体にし、ふり仮名は『水平』第1巻第1号「創立大会号」に掲載されたものを参照しました。

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ！

水平社宣言

宣言は、まず、「全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ！」という呼びかけから始まっています。この呼びかけから想起されるのは、「共産党宣言」ではないでしょうか。

「万国のプロレタリア団結せよ！」で締めくくられた共産党宣言は、1904年に日本語訳が紹介されました。水平社が創立された1922年には、日本でも共産党が結成され、非合法活動ながら、当時の社会運動に影響を与えていました。

共産党宣言（1848年 マルクス、エンゲルス）が、初めて日本語で紹介されたのは1904（明治37）年の『平民新聞』（週刊『平民新聞』第53号 明治37年11月13日発行）でした。訳したのは幸徳秋水、堺利彦で、この時掲載されたのは英訳（原文はドイツ語）からの日本語訳で、掲載直後、秩序をかく乱したとして、発売禁止となりました。

1906年に全文をドイツ語から訳し直して発表され、このときは発禁処分を受けませんでしたが、大逆事件以後、太平洋戦争が終わるまでの数十年間、非合法の扱いを受けました。

1922年には日本共産党が結成されました。共産主義の国際組織で承認され、日本共産党はコミンテルン日本支部となりました。

●全国に散在する

呼びかけに応じて参加した人は、およそ3000人で、広島、兵庫、四国、滋賀、三重、大阪、福島、京都、奈良、埼玉、東京からの参加者が発言しました。中でも、奈良から参加した14歳の山田孝野次郎（このじろう）【註1】の発言が注目されました。山田は、

役人や先生は、演説や講話で平等の必要性や差別の不合理を唱えるが、実際には圧迫・侮蔑・擯斥（ひんせき）といった差別が厳しいと、実例を挙げて訴え、「今私共は泣いている時ではありません。大人も子供も、一斉にたって一斉にたって此嘆きの因を打ち破って下さい、光り輝く新しい世の中にして下さい」と呼びかけました。（参考：「全国水平社創立大会記」『水平』第1巻第1号創立大会号 1922年）

それは、当時の差別は、特に学校において、大変厳しかったからです。子どもたちによるものだけでなく、訓導と呼ばれた教師の差別もひどく、しばしば問題となりました。司法省調査課『司法研究』【註2】に掲載された報告によると、1923（大正12）年3月から24（大正13）年3月に至る1年間の「差別的言行に対する糾弾事件数」は、京都・大阪・奈良・三重・和歌山・兵庫・福井・岡山・山口・福岡・熊本・高知・栃木・埼玉・長野の合計1,432件という「驚くべき数字を示し」、「其の大部分は小学校に於ける差別事件である」と指摘されています。

学校の統廃合が進み、人の交流が進む中で、公教育の場で差別が頻発していたことは、深刻な問題でした。

【註1】 山田孝野次郎は1906年生まれとする資料が多く、創立大会時には16歳になっていたことになりますが、『水平』第1巻第1号創立大会号の「全国水平社創立大会記」では「全国少年代表山田孝野次郎君は十四才の紅顔の可憐児、その愛（いたい）けな姿を壇上にあらはすや、堂々として」と報告されています。

【註2】 福岡地方裁判所検事 長谷川寧『水平運動並に之に関する犯罪の研究』（司法省調査課『司法研究』第5輯報告書集4所収 1927）

執筆者の肩書、タイトルが示すように、水平社とは異なる立場で、運動やその背景を観察、分析したもので、『部落問題・水平運動資料集成』第1巻（三一書房1973）に、大部分が採録されています。

また、創立大会後、全国で次々と水平社が結成されました。奈良と三重では、1921年から組織化の動きがあり、早々と水平社が創立されました。その後、各地で、水平社への結集が続きます。県単位だけでなく、地域で水平社を創立するところもあり、全国に広がっていきました。

1922年前後の動き

1921年

5月15日 奈良県柏原で燕会結成

春 三重県で徹真同志会組織

1922年

全国水平社創立大会（3月3日）
京都府水平社創立大会（4月2日）、埼玉県水平社創立大会（4月14日）
三重県水平社創立大会（4月21日）、奈良県水平社創立大会（5月10日）
大阪府水平社創立大会（8月5日）、愛知県水平社創立大会（11月10日）
兵庫県水平社創立大会（11月26日）

1923年

関東水平社創立大会（3月23日）、静岡県水平社創立大会（3月31日）
愛媛県水平社創立大会（4月18日）、高知県水平社創立大会（4月）
全九州水平社創立大会（5月1日）、山口県水平社創立大会（5月10日）
岡山県水平社創立大会（5月10日）、和歌山県水平社創立大会（5月17日）
佐賀県水平社創立大会（6月17日）、福岡県水平社創立大会（7月1日）
鳥取県水平社創立大会（7月12日）、熊本県水平社創立大会（7月18日）
広島県水平社創立大会（7月30日）、栃木県水平社創立大会（8月5日）

1924年

大分県水平社創立大会（3月30日）、茨城県水平社創立大会（4月15日）
滋賀県水平社創立大会（4月18日）、長野県水平社創立大会（4月23日）
岐阜県水平社創立大会（7月10日）、香川県水平社創立大会（7月11日）
全四国水平社創立大会（9月20日）、千葉県水平社創立大会（10月4日）
徳島県水平社創立大会（12月24日）

1925年

山梨県水平社創立大会（5月4日）

1928年

長崎県水平社創立大会（6月6日）

●特殊部落民よ団結せよ！

この宣言では、「**特殊部落**」という言葉が使われています。

そもそも「部落」とは、集落、地域を意味する一般的な用語で、昭和末期頃でも日常的に使用している人は少なくありませんでした。

対して、「特殊部落」は、差別されている地域（部落）を意味し、差別的な意味を込めて「特殊」と表現しました。つまり、特定の地域を差別するために使われた言葉だったのです。

そのため創立大会閉会後の夜の協議会において、参加者から「吾々自身が、特殊部落

の文字をあらはすのは、自らを卑下するものである」という批判がありましたが、水平社の中心であった青年たちは、あえて「特殊部落」を掲げることの意義を強調し、議論となっています。

水平社の創立メンバーは、なぜ、このように差別的な意味のある「特殊部落」という言葉を使ったのでしょうか。水平社創立を伝えた機関紙『水平』第1号から、当時のメンバーの思いを紹介します。

「特殊部落」を誇りある名にまで向上せしめんと念願する青年輩（せいねんはい）は、いつか、聞き入れず、為に議論に花が咲いた。

「明治四年の布令によって解放された吾々の頭上には、今度は新平民の名称を附され、尚近頃は少数同胞などの名称に代つている。実質が変化しなければ名称は問題でない。歴史は絶対に消されぬ、エタが華族になり、華族がエタの名称と代つても、吾等に対する賤視的觀念が除かれねば、華族のエタが卑しめられ、エタの華族が尊敬せられる、寧（むし）ろ吾々は、明らかに穢多であると標榜（ひょうぼう）して、堂々と社会を闊歩（かっぽ）し得る輝きの名にしたい」と主張する者が多数を占め、結局
名称によつて吾々が解放せられるものではない。今の世の中に賤称とされている「特殊部落」の名称を、反対に尊称たらしむるまでに、不斷の努力をすることで喝采の中に綱領通り保存されることになった。

『水平』第1巻第1号 （下線は引用者）

宣言後半でも、差別的な意味がある「エタ」という言葉を使い、「吾々がエタである事を誇り得る時が來たのだ」とも述べています。ここにも同じ思いが込められているといえるでしょう。

過去半世紀間に種々なる方法と、
多くの人々によってなされた吾等のための運動が、
何等の有難い効果をもたらさなかった
人間を勦(いたわ)るかのごとき運動は、
かへつて多くの兄弟を墮落させた

水平社宣言

「何等の有難い効果をもたらさなかった」という「吾等のための運動」、そして「かへつて多くの兄弟を墮落させた」という「人間を勦(いたわ)るかのごとき運動」とは、部落改善事業（地方改善事業）や、融和運動のことでした。それはどのようなものだったのでしょうか。

ここでは水平社創立前後の動きを紹介します。

●水平社創立前後の部落改善事業（地方改善事業）・融和運動

1920（大正 9）年

1920 年、政府は部落改善予算として 5 万円を計上し、京都府など 16 府県に合計 43,000 円を交付しました。また、地域の実態、改善事業の状況、周囲との関係などの調査を全国的に行い、翌年結果がまとめられました。こうした被差別部落の調査は以前よりしばしば行われていました。そして改善事業をすすめるため、岡山県協和会、信濃同仁会など、各地に融和団体が結成されました。

1921（大正 10）年

1921 年には、部落改善予算が 21 万円に増額され、145,860 円が交付されました。

融和団体である帝国公道会（1914 年創立、初代会長板垣退助）は、第 2 回同情融和大会を開催しました。政治家・華族・学者らが発起人となり、全国から差別されていた地区の代表が参加しています。和歌山県、広島県、山梨県等の被差別地区有力者数名が実行委員に選ばれ、関係各省に陳情して部落改善政策の積極的な実施を要請し、帝国議会に請願【註】も行いました。この請願には、官公吏への採用、身元調査や公文書への差別記載の禁止、軍隊・学校での差別の廃止、部落改善団体の組織化、改善事業をすすめるための体制整備など、差別をなくすための具体的な要求が盛り込まれています。

また、有馬頼寧（よりやす）が融和団体同愛会を、松本治一郎が筑前叫革団を結成す

るなど、各方面の動きも活発でした。社会事業に熱心であった有馬は、水平社にも一定の理解を示していたといわれています。松本治一郎は、この後水平社に参加し、1925年に全国水平社委員長となりました。

【註】 帝国公道会 帝国議会への請願

- 一、部落民を官公吏に採用すること。
- 一、官公文書、身元調査等に特殊部落又は其他忌むべき文字を記載せしめざること。
- 一、軍隊内に於ける差別待遇を廃止すること。
- 一、教育上に於ける差別待遇を廃止すること。
- 一、部落改善団体を組織すること。
- 一、部落改善調査機関設置のこと。
- 一、部落改善費は国庫より支出せられたきこと。
- 一、内務省に部落改善事務の局課を設け、専任の管理を置くこと。
- 一、地方庁内に社会課を設け、部落改善の専任官吏を置くこと。
- 一、北海道に団体移住する戸数の内規制限を撤廃すること。

(参考「同和対策審議会答申」1965)

1922 (大正 11) 年

1922 年 2 月には、大阪で大日本平等会同胞差別撤廃大会が開催されました。水平社の創立メンバーは平等会を批判し、この大会に参加して、3 月 3 日の水平社創立大会への結集を呼び掛けています。この年の部落改善費は、195,847 円でした。

2 月 21 日 大日本平等会同胞差別撤廃大会 (大阪 中之島公会堂)

来賓に大阪府知事・大阪市長、東西本願寺連枝

3 月 3 日 京都の岡崎公会堂で水平社の創立大会

綱領

- 一、我々特殊部落民は、部落民自身の行動によって絶対の解放を期す。
- 一、我々特殊部落民は、絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し、以って獲得を期す。
- 一、我等は人間性の原理に覚醒し、人類最高の完成に向って突進す。

1923 年度には「部落改善」は、「地方改善」と表現されるようになりました。この年の地方改善費は 490,745 円に増額され、その後、対策事業が拡大されていきました。

融和団体は、水平運動の動向を気にしながら、さらに事業をすすめ、1925年には、分散して活動していた融和団体を結集させ、中央融和事業協会（会長平沼騏一郎、事務所は内務省社会局）を結成しました。

各地で展開された融和事業などにおいては、同情融和を掲げ、差別されている人たちの服装や言葉遣いが問題であるとして警察が取り締まるなど、強圧的な対応が批判されることもありましたが、地域の改善にも取り組んでいました。

水平社と、水平社に批判された融和団体は、互いを意識しながら、それぞれの活動を進めていきます。

【参考】

「同和対策審議会答申」 1965

『同和政策の歴史』 藤野豊 解放出版社 1984

『部落解放史 熱と光を』 中巻 部落解放研究所編 解放出版社 1989

吾等の中より人間を尊敬する事によって
自ら解放せんとする者の集團運動を起こせるは、
寧（むし）ろ必然である。

水平社宣言

融和運動に対して、当事者自らが立ち上がり「吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集團運動を起こせるは、寧ろ必然である。」という主張は、水平社の性格を表すものとして注目されています。

『よき日のために』には、まず佐野学による「解放の原則」において、「特殊部落民の解放の第一原則は特殊部落民自身が先づ不当なる社会的地位の廃止を要求することより始まらねばならぬ」と述べられています。

そして、宣言文に込められたのが「吾等の中より」「人間を尊敬する」という表現でした。この重要な言葉には、ロシアの2つ文学作品からの影響をみることができます。『よき日のために』から、その背景を考えてみましょう。

吾々は、即ち因襲的階級制の受難者は、今までのやうに、尊敬す可き人間を、安つぽくする様な事をしてはいけない、いたづらに社會に向つて呟（つぶや）く事を止めて、吾々の解放は、吾々自身の行動である事に気付かねばならない。吾々は世間の所謂同情家の 一同情はする、しかし汝（なんじ）の僻（ひが）みと不衛生な生活から脱けて来い— と云ふ如き遁辞（とんじ：逃げ口上）には耳を藉（か）すものではない。

【中略】

又彼等のあるものは、日本のネツダーノフだ、おせつかいな、お目出度い、ロマンチック・リアリストだ、そんなものに、いつまでも、對手（＝相手）になつて居ては、いけない。吾等の中へ—と云ふのを、吾等の中より—と改めねばならぬ。

『よき日のために』

*下線及び（）内は引用者

●ツルゲーネフ『処女地』のネツダーノフ

ここで登場するネツダーノフとは誰でしょうか。「吾等の中へ」ではなく、「吾等の中より」と改めなくてはならないというのは、どういう意味でしょうか。

『よき日のために』で、おせっかい、おめでたいと否定的に扱われているネヅダーノフは、ツルゲーネフの小説『処女地』の主人公です。日本では、1914（大正 3）年に、相馬御風の訳で出版されました。ロシアの革命運動において、主にインテリ層であった青年たちが、貧しい人民、特に農民のために活動したナロードニキの悲劇を描いています。「ヴ・ナロード」（人民の中へ）の掛け声で、運動に参加していききました。

ナロードニキとは、どういうものであったのか、ここでは、ツルゲーネフが小説の中で、ネヅダーノフの恋人マリアンナに語らせた言葉を、ご紹介します。マリアンナは、ネヅダーノフと共に運動に身を投じようとしていました。

私達は成功します、必度（きっと）です—私達は役に立ちます、私達の生命を無益（むだ）に費しは致しません、私達は人民の中に投じて生活致ませう

【中略】

私達は働かせう、彼らのために、私達の同胞のために、私達の持つてゐる凡（すべ）てのものを捧げませう。私に若（も）し必要があつたら料理も致ませう、裁縫も洗濯も致ませう…屹度（きっと）です、屹度です…そしてそれには何の報酬もありますまい—それでも幸福です、幸福です…

『処女地』相馬御風訳 大正 3 年 博文館 309—310 p

（国立国会図書館デジタルコレクション）

* 下線は引用者

●ゴーリキー『どん底』のサチン

『よき日のために』には、ゴーリキー『どん底』から、サチン（サーチン）の次のセリフが引用されています。

人間は元来勤（いた）はる可きものじゃなく尊敬す可きもんだ —哀れっぽい事を云って人間を安っぽくしちゃいけねえ。尊敬せにやならん、何うだ男爵！人間の為に一杯飲もうじゃねえか —どん底のサチン

『よき日のために』

* （ ）内は引用者

そして、このセリフの引用に続き、「吾々も、すばらしい人間である事を、よろこばねばならない」と記しました。

『どん底』は、マクシム・ゴーリキーの戯曲で、1901 年冬から 1902 年春にかけて

執筆され、同年にモスクワ芸術座で初演されました。

ほら穴のような地下にある木賃宿、そこに集う客たちの間でくり広げられる人生の悲喜こもごもが描かれています。最終幕第四幕では、夜の木賃宿で、そこに住む「男爵」と呼ばれる男や、錠前屋クレシチ、ナースチャ、役者、そしてサーチンたちが、酒も酌み交わしながら、話に花を咲かせています。最終幕の後半、すっかり酔いのまわったサーチンが男爵に語りかけた言葉が、「人間は元来勲（いた）はる可きものじやなく尊敬す可きもんだ」だったのです。

日本では、1910年12月、小山内薫の訳・演出、二世市川左団次の出演、『夜の宿』というタイトルで、自由劇場第三回公演として有楽座で初演されました。以来、たびたび上演されています。

『夜の宿』は脚本としても出版され、日本語で読める『どん底』としては、小山内の訳した『夜の宿』が有名です。けれども『よき日のために』で引用されたサチンのセリフは、昇曙夢（昇直隆）の訳を参考にしたものと考えられます。昇と小山内の訳を比べてみましょう。

○昇曙夢訳

人一間！人間は元来（もともと）勲（いた）はるべきものぢやなく尊敬すべきもんだ ……哀れッばい事を言つて人間を安ッぽくしちやいけねえ。尊敬せにやならん。何（ど）うぢや男爵！人間の為に一杯飲まうぢやねえか（と立上る）自分を人間だなど感じた時の気持は何んとも言へねえ

『脚本 どん底』マクシム・ゴーリキー作 昇曙夢訳 聚精堂 明治43
（国立国会図書館デジタルコレクション）

○小山内薫訳

にいーんーげん。人間は尊敬すべきものだ。憐れむべきものぢやない…同情などといふもので侮辱すべきものぢやない… 尊敬すべきものだ。男爵、人間の健康の為に祝杯をあげよう。自分が人間だと思ふと一実に愉快だね。

「夜の宿(マクシム・ゴルキイ)」『近代劇五曲』小山内薫 大日本図書株式会社 大正2 （国立国会図書館デジタルコレクション）

20世紀初頭に日本にもたらされたロシアの民衆を描いた作品が、日本の水平社宣言に大きな影響を与えていたことがわかります。

●なぜ、ツルゲーネフとゴーリキーだったのか

ところで、このロシアの2つの文学作品（ツルゲーネフの小説『処女地』とゴーリキーの戯曲『どん底』）について、水平社創立趣意書『よき日のために』と水平社宣言を書き上げる際に参考にされたのではないかと考えられる書物があります。

1914（大正3）年に『処女地』を訳して出版した相馬御風が、翌大正4年に執筆した『ゴーリキイ』です。相馬は、この書で、「ロシアの一角からヨーロッパの文壇へ彗星の如く現れ出」たマキシム・ゴーリキイと名乗る一人の若い詩人について、生い立ちや作品を紹介し、彼の革命性について論じています。

第5章「革命家としてのゴーリキイ」では、バクーニン、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイらがこぞって叫び、ロシアの文学、思想界の合言葉であった「民衆の中へ！」「民衆の為に！」について、次のように指摘しました。

既に「民衆の中へ！」と云ふ。それには同時に「いづこより？」の疑問をさしはさむべき余地が示されて居る。「中へ」は「中から」ではないからである。

【中略】

ロシアの革新運動は、民衆ならぬ人々の企てた「民衆の為に」の運動に外ならなかったのである。

相馬御風『ゴーリキイ』実業之日本社 大正4 p119

（国立国会図書館デジタルコレクション）

そして、具体的に『処女地』のネヅダーノフの例を挙げて、「民衆の中へ」の欺瞞を語り、中へではなく「民衆の中より」登場したのが、ゴーリキイであるとしました。

「民衆の中へ」又は「民衆の為に」の合言葉の下に集った多くの革命家の失敗の後を襲うて出現すべき真の革命家は、もはや彼等と同じ「民衆の中へ」の人々であつてはならなかった。それは真に「民衆の中より」の人でなければならぬのである。

【中略】

恰（あたか）も此の時に当つて、マキシム・ゴーリキイが現れた。彼こそ真に民衆の中よりの使徒であつた

（相馬『ゴーリキイ』 p139）

＊（）内は引用者

更にツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキーらが叫ぶ声は、「何等の積極的な

効果をもたらし得ないで」「幻滅の中に、空しく葬られ去つた」と指摘、『処女地』のネツダーノフを例に挙げて、「民衆の中へ」運動への決別を語りました。

而（しか）も恸（こ）うした彼等の叫び声は、彼等下層民そのものの中には、遂に何等の積極的な効果をもたらし得ないで、解散を叫ぶものも、解放を叫ばれるものも、皆一様な幻滅の中に、空しく葬られ去つたのが事実ではないか。此間の消息を最もよく語るものは、前にも述べたツルゲーネフの『処女地』の中の、ネツダーノフの末路である。「自分はロマンチック、リアリストであつた」と云つて、一発の弾丸に依て我が額を砕いて死ぬる若い革命家の哀切な末路は、恸（こ）うした貴族的な革命運動の必然的な幻滅を語るものである。

（相馬『ゴーリキイ』 p 280）

そして、ゴーリキイを高く評価する相馬は、「此の時代に於ける彼の最も傑れた作はあの『どん底』」と指摘し、『よき日のために』でも引用された昇曙夢訳の次のセリフを引用したのです。

「一個の人間たれ」これがゴーリキイの人生観の凡てであつた。『どん底』の中のサチンの乾杯辞は恸（こ）うであつた。

【中略】

「人間は元来（もともと）勦（いた）はるべきものぢやなく、尊敬すべきもんだ…。哀れつばい事を云つて、人間を安つぽくしちやあいけねえ。尊敬せにやならん。何（ど）うちや男爵！人間の為めに一杯飲まうちやねえか（と立上る）自分を人間だなと感じた時の気持は何んとも云へねえ！【後略】」

（相馬『ゴーリキイ』 p 300～301）

相馬が『ゴーリキイ』で、鮮やかに対比させてみせたロシアの「民衆の中へ」という運動の限界と、ゴーリキイの描く人間への賛辞は、日本で差別や社会的抑圧に苦悩していた人びとに、新たな運動の方向性を示しました。

そして「水平社」は生まれました。

それはまさに激動する時代の「必然」だったのではないのでしょうか。

ケモノの皮はぐ報酬として、生々しき人間の皮をはぎ取られ、
ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引き裂かれ、
そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた

水平社宣言

水平社宣言には、当時の差別への怒りが書き込まれていますが、その一つとして、「**ケモノの皮はぐ**」「**ケモノの心臓を裂く**」という表現が使われています。これは部落差別が江戸時代の身分差別に起因し、被差別身分の中に、死んだ牛馬の処理に従事した人びとがいたことを意味しています。

そこで、江戸時代の身分制度と死牛馬（斃牛馬）処理について、簡単に説明しておきたいと思います。

●死んだ牛馬の処理と関連産業

江戸時代の村では、農作業で使う牛馬が死んだ時に、その処理をする人を特定して任せるという慣習がありました。死んだ牛馬の処理を農民が自ら行った地域もありましたが、多くの地域では、特定の被差別身分の人に従事させていたのです。死んだ牛馬の処理は職業ではなく、従事する人の多くは農業などの仕事を持ち、牛馬が死んだ時に、処理する権利を持っている被差別身分の人が、地域のルールに従って処理していました。

ところが、中には死んだ牛馬の処理の経験や技術を活かして、農業の傍ら、新たな産業を興す人たちもいました。皮なめしや、膠製造、雪駄づくりなどで成功し、大きな富を得た人びともいましたが、一方で、周辺地区との違いが目立つようにもなりました。

明治になり、江戸時代の死んだ牛馬の処理システムは全国統一して廃止され、従来処理に携わっていた人びとの中には、明治以降は関わらないという選択をしたところもあります。

その一方で、江戸時代から続く産業を更に発展させた地域や、近代産業として食肉、皮革関連産業など新たに事業を興した地域もありました。

たとえば水平社創立メンバーであった阪本清一郎の生家は、膠を製造していました。

膠は、動物性の接着剤として古くから世界各地で利用されてきました。獣の皮、軟骨などを煮詰めて凝固、乾燥させたもので、製造は気温の低い時期が適していました。

原料として獣皮などが使われるため、差別的に扱われたこともありましたが、古くから木工、墨など、日本の産業や文化に欠かせないものでした。

冬季製造を基本とする伝統的な方法（和膠）が各地で長く続けられました。明治以降は、接着剤、マッチ、食用・医療用・写真フィルム用・精密工業用ゼラチンなど用途が広がり、機械化により大量に安定した質の膠を製造できる西洋の製造法（洋膠）や、より純度が高く良質のゼラチンを製造する研究もすすみました。

差別の中で、「生々しき人間の皮をはぎ取られ」、「暖かい人間の心臓を引き裂かれ」、「下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた」という屈辱を受けた人びとが担った仕事は、社会に欠くことのできないものであったことを、強調しておきたいと思います。

水平社は、かくして生れた。

水平社宣言

●水平社とレベエラース

こうして創立された新しい組織の名は「水平社」でした。

水平社という名前を提案したのは阪本清一郎でしたが、創立趣意書では、「彼のレベエラースから思ひ付いた様な名の此の結社」と記しています。「彼(か)のレベエラース」(レベラーズ)とは、イギリスのピューリタン革命期における急進的グループでした。

17 世紀イギリスで、クロムウェルが共和制を実現した時、テムズ川上流にあるパトリック教会において起きた論争で、広範な民衆の選挙権と政治参加を主張し「人民協定」を提出した下級兵士のグループを、レベラーズといいました。一方幹部は、政治に参加する条件として財産資格を求めました。下級兵士たちの要求は認められませんでした。平等、水平を意味するレベラーズと呼ばれるようになり、歴史に記録されました。

＊松井幸夫「憲法における市民と公共」(『YURO2020 公共政策研究所報告 2020 四日市大学特定プロジェクト研究報告 2020』 四日市大学研究機構 2021)

後に、阪本清一郎と西光万吉は、この名称について、次のように述べています。

阪本清一郎

「水平社創立の思い出」(『部落問題資料文献叢書第3巻第1冊 水平』解説)

“水平社”という名は、私が平等ということから思いついたのだが、あとで17世紀半ば頃にイギリスの民主主義革命が行われたとき、農民が都市の勤労者と結んだときに名づけられた“レベエラース”(水平者)と相通ずるものがあることが判った

西光万吉

「水平社が生まれるまで」(『水平運動論叢』)

水平社という名は、当時阪本さんが発案したもので、中世英国の有名な農民一揆の名を連想するので私たちも異議なしであった。

「水平社」は、阪本清一郎の思い付きに、メンバーたちが遠くイギリスの革命や民衆を思って名付けられました。

■おわりに

1922 年の創立後、水平社の運動は各地に広がっていきました。

ところが 1937 年日中戦争が始まると、すべての社会運動は運動を停止し、挙国一致で戦争に協力しなければならなくなりました。1938 年には国家総動員法が制定され、1941 年、言論出版集会結社等臨時取締法が施行されると、思想結社とされた運動団体は解散届けを提出するよう強要されました。水平社は届を提出しませんでした、1942 年法的に消滅となりました。部落問題の解決は、戦争によって中断されることになったのです。

2022 年 3 月、日本を含む世界は、深刻化する環境問題、世界規模の感染症の拡大、貧困、食糧難に加えて、ロシアがウクライナを攻撃したことにはじまる戦争状態により、長く解決困難な課題に直面しています。

100 年前もそうであったように、日本と世界は常につながってきました。私たちは互いに影響し合っているのです。そして、こうしたつながりは、これからの私たちが共に迎えることができる「よき日のために」にこそ活かしていきたいと、私は思います。

中 島 久 恵

- ・「四日市公害と環境未来館のオープン 『当事者』の発見」
(『博物館学雑誌』 41(1) 2015 年)
- ・「骨・血・筋・臓器の利用史と化製業の社会的役割について」
(『明日を拓く』第65号 東日本部落解放研究所 2006 年)
- ・『モノになる動物のからだ 骨・血・筋・内臓の利用史』 批評社 2005 年
- ・「動物の利用に関する仕事」
(『四日市の部落史 民俗編』 四日市市 2001 年)
- ・「屑拾いは物を生かす立派な仕事--名古屋報徳少年団時代の思い出を聞く」
(歴史民俗学 7 批評社 1997 年)
- ・「近世名古屋の非人について」
(『岐阜史学』86号 岐阜史学会 1993 年)

